

地球温暖化・少子高齢化社会に対応した 新しい社会づくりを目指して



21世紀 持続可能な日本とは?

2011年2月12日(土) 13:30~17:00 [開場 12:30] 東京大学 安田講堂

入場
無料

プログラム

第I部 (挨拶、講演)

開会挨拶

13:30-13:50 小宮山 宏 (SSC 理事長・前東京大学総長・三菱総合研究所理事長)

講演

13:50-14:10 武内 和彦 (東京大学IR3S副機構長・国際連合大学副学長)
「21世紀日本の持続可能なまちづくり・むらづくり」

14:10-14:30 江守 正多 (国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室室長)
「地球温暖化リスクの評価と管理戦略」

14:30-14:50 秋山 弘子 (東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)
「長寿社会のまちづくり」

14:50-15:10 諸富 徹 (京都大学大学院経済学研究科教授)

「持続可能な都市発展の社会経済的側面」

15:10-15:40 休憩

15:40-17:00 第II部 (パネル・ディスカッション)

▶モデレーター

花木 啓祐 (東京大学IR3S兼任教授・大学院工学系研究科都市工学専攻教授)

▶パネリスト

上記講演者／大田 昌博 (山梨県道志村村長)／室山 哲也 (NHK解説委員)

閉会挨拶

住 明正 (東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ (TIGS) 統括ディレクター・教授)

21世紀中盤に向け、全国の地方都市が発展する上で避けて通れない課題が少子高齢化と地球温暖化への適応であり、これらは相互に影響を与えている。例えば、地球温暖化の進行によって熱波、大雨、干ばつなどの気候災害が増大すると予測されているが、一方で、高齢化が進み財政の厳しい地方都市では、どのようにして温暖化に適応していくのであろうか。また、低炭素都市のカギと言われるコンパクトシティ構想は、高齢化社会においてはどのようなメリットを持つのであろうか。さらに、このような作業を進めてゆくためにもさまざまな利害関係者の合意を形成する必要がある。そのためには、科学的な知識、および、現在の状況、将来のリスクなどについて理解を深めていく必要がある。今回の公開シンポジウムでは、我が国の地方都市を対象に、地球温暖化、少子高齢化への対応という2つの重要課題をキーワードに、情報の社会への提供と社会的合意形成と、IR3Sのミッションである環境、経済、社会各政策を統合した持続可能な社会の実現に向けた方策について論じる。

主催 東京大学サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) / 一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC)

協賛 三井不動産株式会社 

後援 環境省 / 日本経済新聞社 / 環境科学会 / (社)土木学会 / (社)日本造園学会 / (社)日本都市計画学会



本シンポジウムは、地球環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-5「地球温暖化に係る政策支援と普及啓発のための気候変動シナリオに関する総合的研究」の一環として開催されます。

詳しい情報、参加お申し込みはwebサイトから ▶ <http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/event110212>

お問い合わせ先 東京大学サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) E-mail: sympo_ir3s@ir3s.u-tokyo.ac.jp TEL: 03-5841-1539 FAX: 03-5841-1545